

【背景・目的・成果】兵庫県では2008年以降、イネ縞葉枯病が多発傾向にあります。小麦で増殖したヒメビウンカが移植直後の水田へ飛来し、本病を感染させることが多発原因の一つであるため、まずは、移植直後の感染を防ぐことが重要です。そこで、移植直後に飛来するヒメビウンカを防除するため、育苗箱施用殺虫剤について、処理方法と防除効果の関係を調べ、播種時処理がイネ縞葉枯病の感染予防に効果的であることを明らかにしました。さらに、越冬中のヒメビウンカに対しては、厳冬期の耕起で高い防除効果が得られることを明らかにしました。これらの防除技術を基幹とした防除層様式の防除マニュアルを生産者向けに策定しました。

## 平成30年度 水稲、小麦二毛作地域における縞葉枯病防除マニュアル

兵庫県立農林水産技術総合センター

### ヒメビウンカ(イネ縞葉枯ウイルス媒介虫)防除層

無理せず、できる事をできる時にやりましょう。

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月~2月
イネ縞葉枯病		初期感染	初期発病		後期感染	後期発病	感染拡大			翌年へ
ヒメビウンカ	越冬世代		第1世代		第2世代	第3世代	第4世代			越冬世代
水稲		播種	移植	増殖	出穂	成熟	収穫			
小麦								播種		
雑草										越冬

#### 防除の要点

- 1 雑草など越冬したヒメビウンカが羽化後、小麦畑へ飛来する。
- 2 小麦の赤かひ病防除と同時に殺虫剤を散布。
- 3 育苗箱施用殺虫剤の播種時処理を実施し、初期感染・初期発病を抑制する。
- 4 小葉が薄くなり、巻いて垂れ下がる。(ゆうれい症)初期発病
- 5 穂が縞状に黄化し、穂の出ずみが発生する。後期発病
- 6 発病株は多く確認される場合は、本田防除を実施。
- 7 冬期の耕起で越冬世代を低減させる。

#### イネ縞葉枯病防除の考え方

イネ縞葉枯病は虫媒伝染病。ヒメビウンカがイネ縞葉枯ウイルスを媒介することによって感染が広がる。イネ縞葉枯病感受性品種を栽培する地域においては、ヒメビウンカの防除が最も効果的。経卵伝染する虫媒伝染病のため、一度多発した地域では短期間で終息は望めない。長期間継続した対策が必要となる。

#### イネ縞葉枯病防除マニュアル

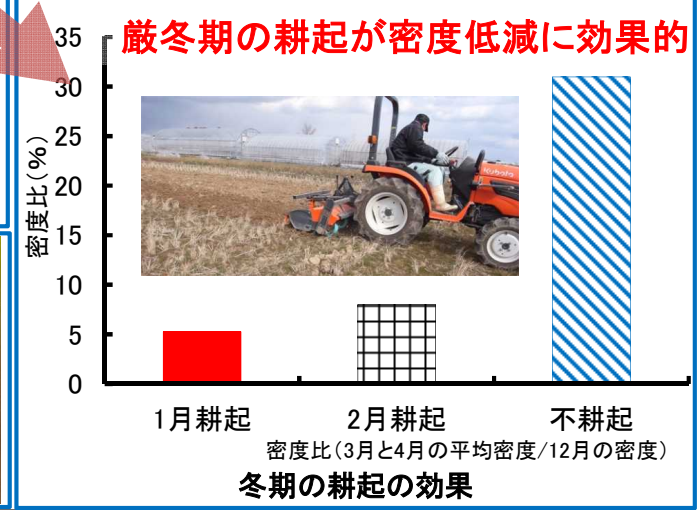
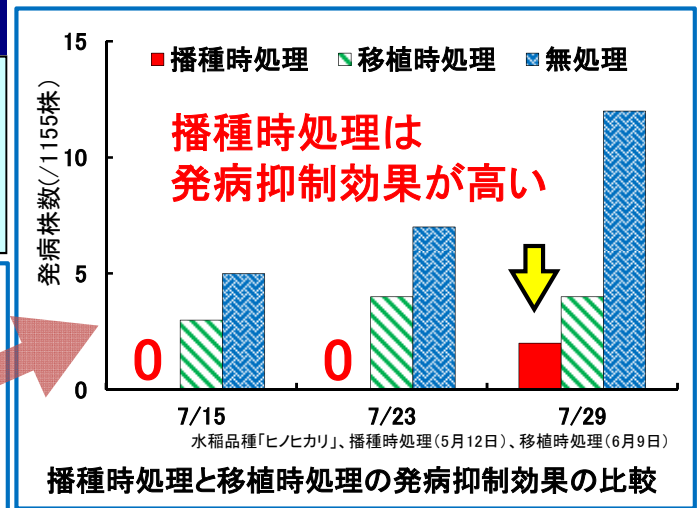
※病害虫防除所のホームページに掲載中  
(<http://hyogo-nourinsuisango.jp/chuo/bojo/>)

#### ヒメビウンカ

初期発病 後期発病 ひこばえ感染株

冬期の耕起で越冬世代を低減させる

耕起時期	密度比(%)
1月耕起	~5
2月耕起	~10
不耕起	~30



### イネ縞葉枯病防除の考え方

イネ縞葉枯病は虫媒伝染病。ヒメビウンカがイネ縞葉枯ウイルスを媒介することによって感染が広がる。イネ縞葉枯病感受性品種を栽培する地域においては、ヒメビウンカの防除が最も効果的。経卵伝染する虫媒伝染病のため、一度多発した地域では短期間で終息は望めない。長期間継続した対策が必要となる。

初期発病

後期発病

ひこばえ感染株

♂

♀

【技術の活用】農業改良普及員や病害虫防除員(JA営農指導員を含む)に対する研修会で縞葉枯病防除マニュアルを配布し、イネ縞葉枯病発生地域の生産者に対して普及を図っています。